

株式会社FOOD & LIFE COMPANIES

2022年度上半期

決算説明資料

2022年5月6日



FOOD & LIFE
COMPANIES

[連結] 業績ハイライト (セグメント別) FY21上半期 対比

- 国内スシロー事業：売上収益は、コロナの再拡大による営業時間規制の影響を受けつつも健闘し増収となったが、利益面では、一過性の有利買付効果がなくなったこと等により減益。
- 海外スシロー事業：韓国、香港、中国大陸、シンガポールは、厳しい営業規制を強いられるも、売上構成比は10.9% (FY21上半期6.6%) と成長。営業利益 (ロイヤリティ支払前) で黒字を達成。
- 京樽事業：コロナによる厳しい状況は続いたが、時短協力金の計上等でEBITDAではプラス。

	国内スシロー事業			海外スシロー事業			京樽事業			その他事業		
	FY21 上半期	FY22 上半期	増減率 (増減数)	FY21 上半期	FY22 上半期	増減率 (増減数)	FY21 上半期	FY22 上半期	増減率 (増減数)	FY21 上半期	FY22 上半期	増減率 (増減数)
(単位: 百万円)												
売上収益	110,323	112,273	1.8%	7,875	15,249	93.6%	—	10,768	—	844	1,967	133.1%
営業利益 (ロイヤリティ支払前)	13,589	10,772	▲20.7%	▲104	655	—	—	▲766	—	▲602	▲346	▲42.5%
減価償却費及 び償却費	7,031	7,853	11.7%	1,101	1,908	73.3%	—	821	—	153	185	20.9%
減損損失	64	483	654.7%	109	439	302.8%	—	704	—	363	164	▲54.8%
EBITDA⁽¹⁾	20,620	18,693	▲9.3%	997	2,564	157.2%	—	55	—	▲448	▲161	▲64.1%
店舗数	583	640	(57)	44	71	(27)	—	283	(283)	33	54	(21)

[Note] (1) EBITDA: 営業利益に減価償却費及び償却費を調整
(2) 連結合計営業利益とセグメント別営業利益の合計の差額は、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用

[連結] 業績ハイライト (セグメント別) FY21上半期 対比

- 国内スシロー事業：売上収益は、コロナの再拡大による営業時間規制の影響を受けつつも健闘し増収となったが、利益面では、一過性の有利買付効果がなくなったこと等により減益。
- 海外スシロー事業：韓国、香港、中国大陸、シンガポールは、厳しい営業規制を強いられるも、売上構成比は10.9% (FY21上半期6.6%) と成長。営業利益 (ロイヤリティ支払前) で黒字を達成。
- 京樽事業：コロナによる厳しい状況は続

(単位: 百万円)	国内スシロー事業			海外スシロー事業			その他事業					
	FY21 上半期	FY22 上半期	増減率 (増減数)	FY21 上半期	FY22 上半期		FY21 上半期	FY22 上半期	増減率 (増減数)	FY21 上半期	FY22 上半期	増減率 (増減数)
売上収益	110,323	112,273	1.8%	7,875	15,249							
営業利益 (ロイヤリティ支払前)	13,589	10,772	▲20.7%	▲104	655							
減価償却費及び償却費	7,031	7,853	11.7%	1,101	1,908							
減損損失	64	483	654.7%	109	439	302.8%	—	704	—	363	164	▲54.8%
EBITDA⁽¹⁾	20,620	18,693	▲9.3%	997	2,564	157.2%	—	55	—	▲448	▲161	▲64.1%
店舗数	583	640	(57)	44	71	(27)	—	283	(283)	33	54	(21)

減損損失 増加の背景

- ① 売上収益の回復が想定を下回った為。
(国内外のコロナ規制の影響や消費マインドの回復が想定より鈍かった)
- ② 一過性の有利買付効果がなくなった為。

結果、
FY21上半期 5.3億円 ⇒ FY22上半期 17.9億円 と大きく増加

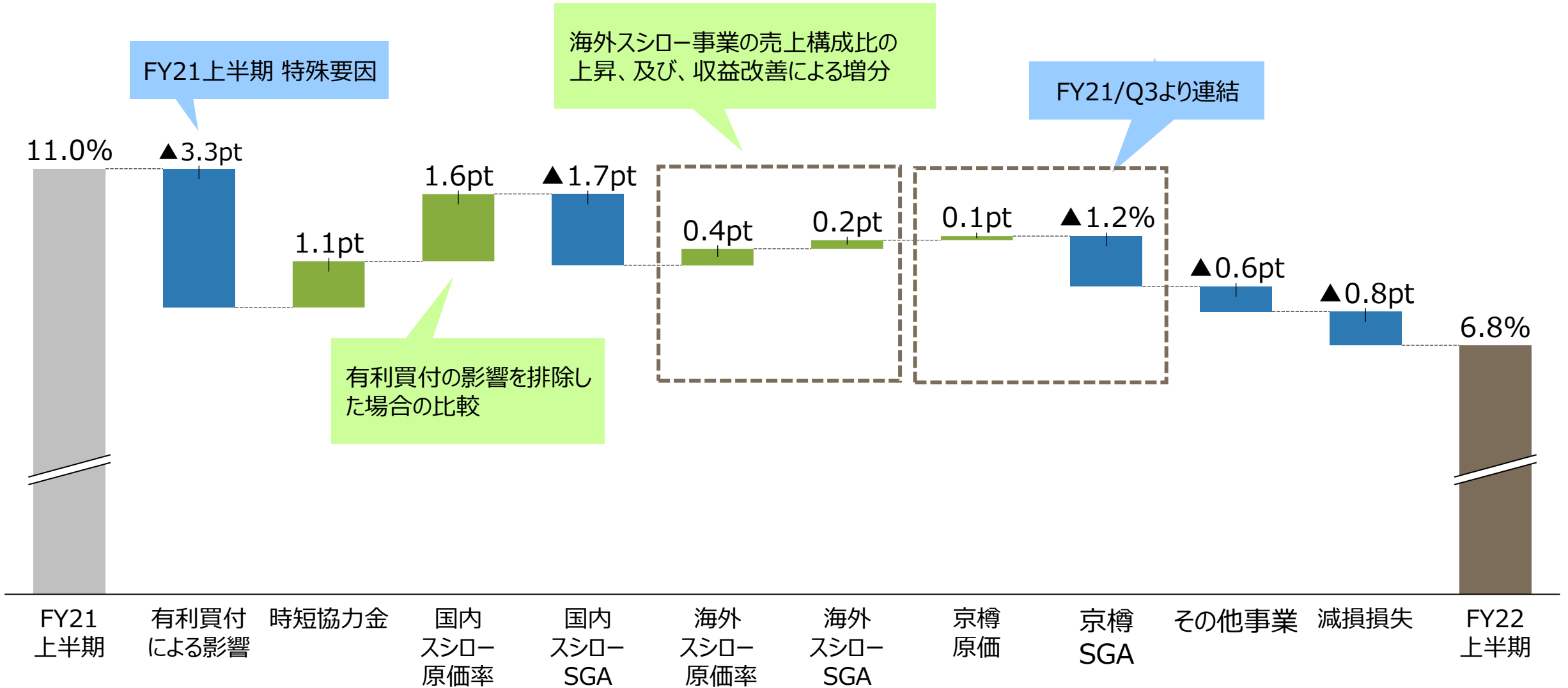
[Note] (1) EBITDA: 営業利益に減価償却費及び償却費を調整
(2) 連結合計営業利益とセグメント別営業利益の合計の差額は、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用

[連結] 業績ハイライト 上半期

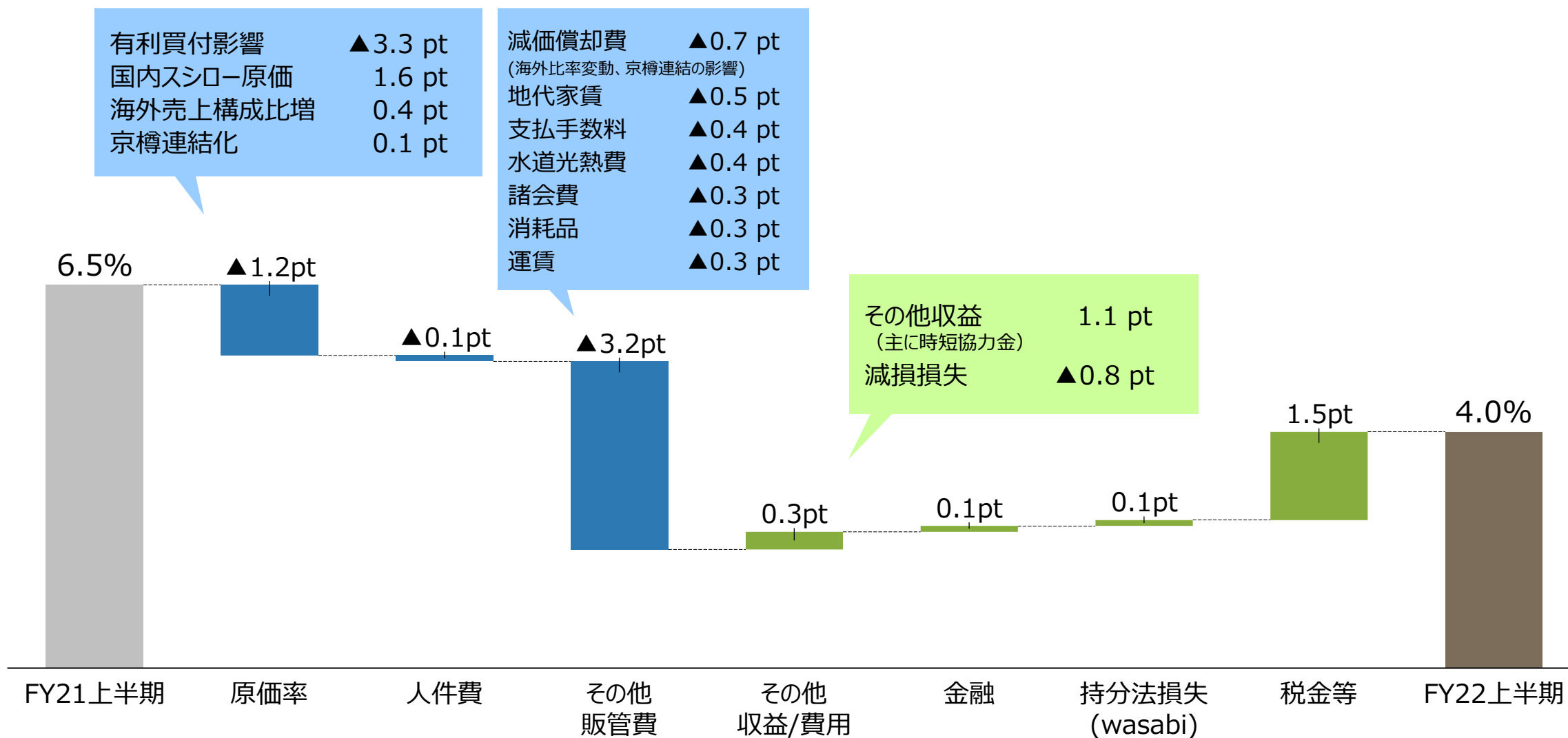
- コロナの再拡大により、国内・海外ともに厳しい規制下に置かれたが、新規出店効果及び京樽の連結子会社化により上半期実績としては、過去最高の売上収益となった。
- 利益面では、コロナによる規制の影響があった事や、FY21上半期にあった有利買付効果がなくなった事、減損損失の計上等があった事で減益となったが、厳しいビジネス環境においても、しっかりした業績を残すと共に、出店の継続や成長投資に向けた資金調達も実施するなど中計目標の達成に寄与する上半期となった。

	FY21 上半期		FY22 上半期		前年比	進捗率 ⁽¹⁾
	実績	売上比	実績	売上比		
(単位: 百万円)						
売上収益	119,042	—	140,257	—	17.8%	47.5%
営業利益	13,114	11.0%	9,572	6.8%	▲ 27.0%	59.8%
税前利益	12,414	10.4%	9,046	6.4%	▲ 27.1%	64.6%
当期利益	7,760	6.5%	5,589	4.0%	▲ 28.0%	64.2%
売上原価	54,221	45.5%	65,515	46.7%	1.2pt	—
店舗数	660	—	1,048	—	388	—

[連結] 営業利益 変化要因分析_FY21上半期比較



[連結] 当期利益 変化要因分析_FY21上半期比較



[連結] 財務状況

連結財政状態計算書 (連結BS)

(単位：百万円)	FY21通期末	FY22上半期末	増減
流動資産	48,841	75,591	26,749
[現預金]	[29,367]	[57,909]	[28,542]
非流動資産	247,159	255,764	8,605
[のれん]	[30,541]	[30,541]	[-]
資産	296,001	331,355	35,355
流動負債	59,860	57,452	▲2,407
[借入金]	[4,009]	[4,009]	[-]
非流動負債	172,568	208,187	35,619
[社債及び借入金]	[58,896]	[90,909]	[32,014]
負債	232,428	265,639	33,212
資本	63,573	65,716	2,143
負債資本	296,001	331,355	35,355
自己資本比率	21.3%	19.6%	▲1.7pt
Net Debt/EBITDA	1.6x	2.2x	0.6x

連結キャッシュ・フロー計算書 (連結CF)

(単位：百万円)	FY21上半期	FY22上半期	増減
営業CF	16,016	16,665	650
投資CF	▲6,975	▲8,801	▲1,826
財務CF	11,109	20,262	9,153
キャッシュ増減	20,359	28,542	8,183

■連結BS

資 産：(主な増加) 現預金 及び 有形固定資産 (主な減少) 営業債権
 負 債：(主な増加) 借入金 及び リース負債
 (主な減少) 未払法人税等 及び 引当金
 資 本：(主な増加) 四半期利益 (主な減少) 自己株式 及び 配当支払

■連結CF

営業CF：時短協力金回収等により 営業債権等減少額 27億 (前年同期は増加 49億)
 投資CF：出店/省人化投資継続により 投資支出増加
 財務CF：FY21上半期は 普通社債 200億円 調達。FY22上半期は 長期借入 340億 調達。
 また、リース負債 返済支出 71億 (前年同期 52億) 自己株取得支出 20億円 発生

■経営指標

自己資本比率：長期の資金調達実施し、▲1.7pt 及び NetDebt/EBITDA 0.6x 上昇
 ROE : FY21上半期：14.5% → FY22上半期：8.7% と低下 (減益影響)

[全社] 国内・海外の店舗数推移

	FY21 通期末 店数	FY22/ 上半期			上半期末 店数
		OPEN	CLOSE	増減	
郊外型 ⁽¹⁾	564	17	1 ⁽²⁾	+ 16	580
都市型	31	5 ⁽²⁾	0	+ 5	36
テイクアウト専門	15	10	1	+ 9	24
[国内] スシローブランド	610	32	2	+ 30	640
[国内] 杉玉ブランド ⁽³⁾	39	15	1	+ 14	53
[国内] 京樽ブランド (テイクアウト専門)	154	8	6	+ 2	156
[国内] 回転寿司みさき (海鮮三崎港) ・ 三崎丸 ブランド	106	0	4	▲4	102
通常型	58	11	0	+ 11	69
テイクアウト専門	1	1	0	+ 1	2
[海外] スシローブランド	59	12	0	+ 12	71
その他のブランド	31	0	5	▲5	26
全社 計	999	67	18	+ 49	1,048

[Note] (1) 4店舗の110円トライアル店含む (2) 郊外→都市型へ転換(郊外 -1, 都市+1)
(3) 杉玉ブランドには、FC店舗数を含む

国内事業

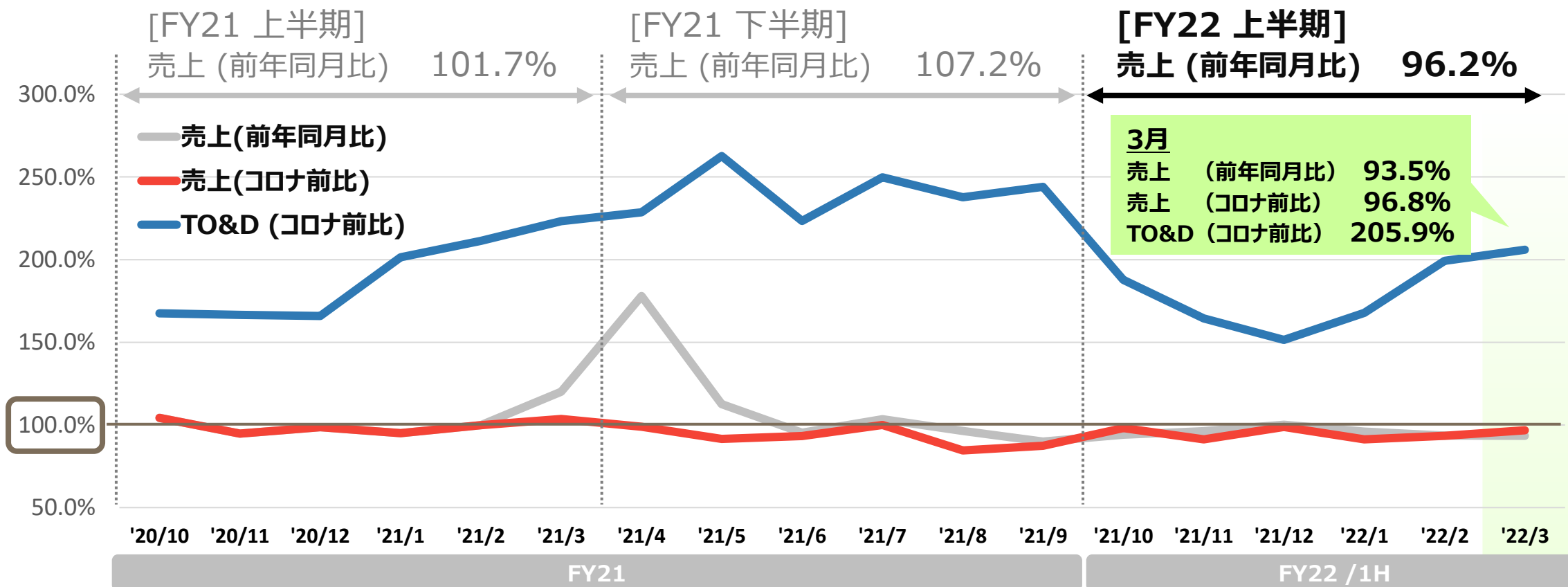
海外事業



FOOD & LIFE
COMPANIES

[国内] 回転すし(スシロー)事業 売上推移

- 3月、売上のコロナ前比は 96.8% と健闘。営業時間等の規制解除後も、特に夜の生活様式の変化によるEI客数減からの戻りに時間がかかりそうだが、TO&Dは、コロナ前比 200%超の水準で売上に貢献。




[Note] (1) EI = Eat-in, TO&D = Takeout and Delivery
 (2) 開店より15カ月経過した店舗を既存店と定義。既存店売上高は、店舗当たり売上をもとに算出
 (3) 2020年3月以降の業績はコロナ影響がある為、前年同月比グラフのコロナ前比は、2021年3月～2022年2月までは、2年前同月との比較。2022年3月以降は、3年前同月との比較。

[国内] テイクアウト事業 (グループ戦略)

- 京樽セントラルキッチン (以下、船橋CK) を最大限活用する為、船橋CK内でスシローToGo商品も製造し、規模拡大も出来る設備導入を準備。早朝に販売できる常温商品も店舗に送り込むことで、店舗営業時間帯拡大が可能になる予定 (船橋CKからデリバリー可能圏内はWブランド店舗として拡大させる)。

各テイクアウト事業の特性

立地 商品 営業	デパート、 駅近 上方鮨 (常温) 朝の販売不可 (デパート営業時間)	京樽ブランド 	124 店
立地 商品 営業	商店街、 駅中、 駅近 上方鮨(常温)+江戸前鮨(冷蔵) 朝～夜まで調整可	Wブランド 	32 店
立地 商品 営業	商店街、 駅中、 駅近 江戸前鮨 (冷蔵) 朝の販売不可 (母店営業時間)	スシローToGoブランド 	24 店 関東 18 関東外 6

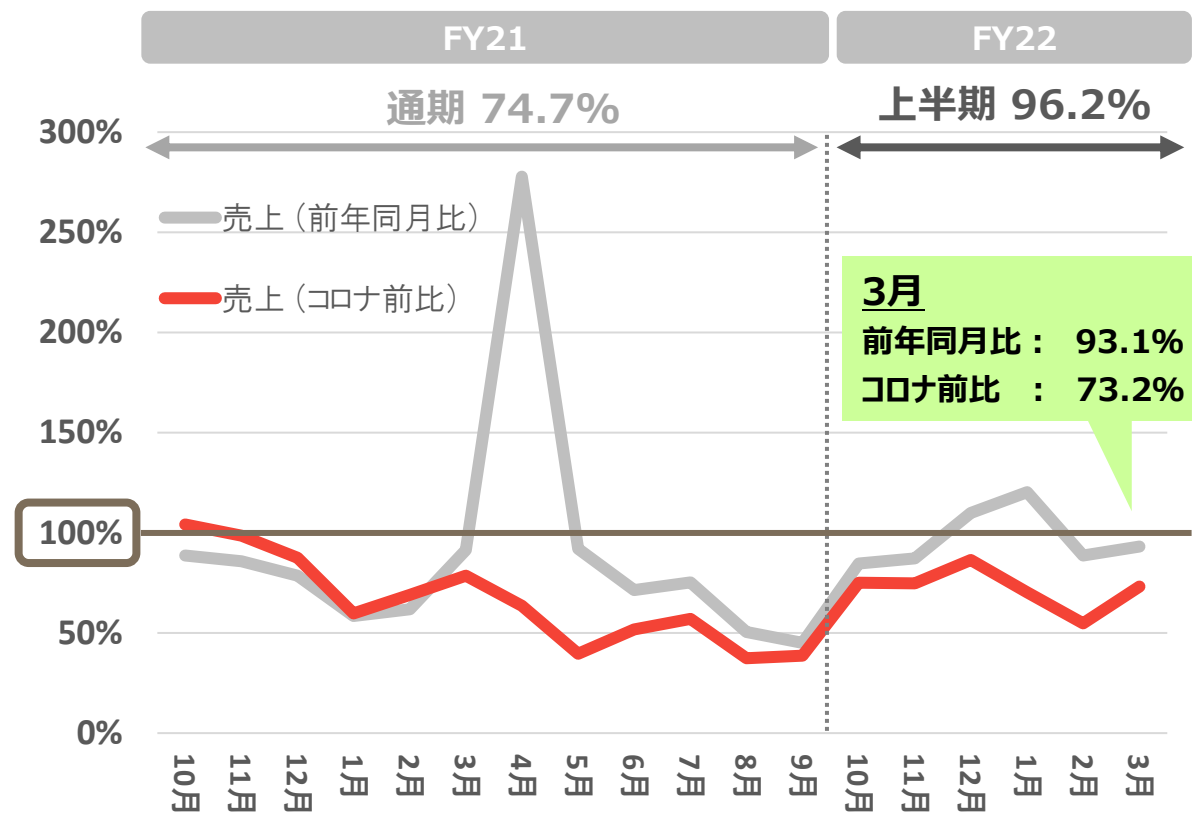
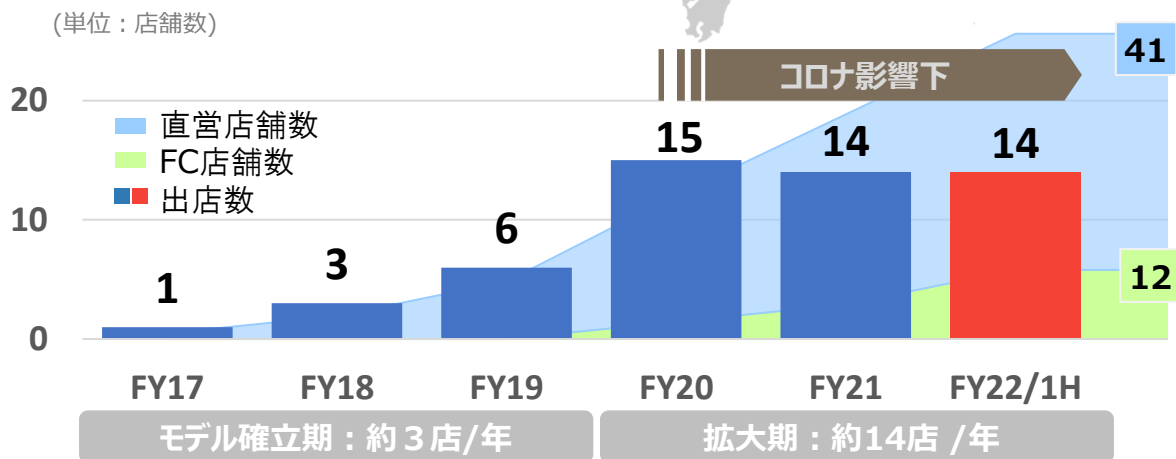
転換後の店舗数イメージ



[Note] (1) 店舗数は、2022年3月末時点

[国内] 杉玉事業進捗

- アfterコロナのシェア拡大を目指して、上半期、直営店+8店、FC+6店（ダイヤモンドダイニング等）の、合計+14店舗と、力強く出店を継続。業績は規制解除後の3月下旬から回復基調が顕著。3月前年同月比で93.1%、コロナ前比も73.2%まで回復。



[Note] (1) 左側のグラフの、財務年度毎の出店数は、閉店数を引いたNET数を表示。
 (2) 2020年3月以降の業績はコロナ影響がある為、前年同月比グラフのコロナ前比は、2021年3月～2022年2月までは、2年前同月との比較。2022年3月以降は、3年前同月との比較。

[海外] 厳しい営業規制の中、将来の成長に向けた基盤確立

韓国

コロナ影響：大

業績

原価高騰に苦しんだが、仕入努力と価格変更により改善。

課題

感染者大幅増により休職・退職者増加。下期は人員確保に注力。

店数⁽¹⁾ 9 / 10 店舗 (+0)

香港

コロナ影響：大

業績

EI 18時まで、1卓2名という厳格な規制下でも黒字達成。

課題

従業員の感染・濃厚接触による欠勤が増加。オペレーションを安定させるため人員確保に注力。

店数 13 / 18 店舗 (+2)

タイ

コロナ影響：小

業績

11月規制解除後、12月に1号店が過去最高売上を更新。その後も規制なく、堅調に推移。

課題

アイドルタイムの利用拡大の為、商品・販促の魅力度向上に注力する。

店数 7 / 9 店舗 (+4)

台湾

コロナ影響：小

業績

CMとSNSのキャンペーンにより認知向上がすすみ、月商ベースで着実に競争を引き離している

課題

販促やPRの頻度や内容を強化し、好調な業績の更なる向上を図る。

店数 28 / 32 店舗 (+2)

シンガポール

コロナ影響：大

業績

オミクロン株の再拡大により規制緩和が延期。業績は厳しい状況が続く。

課題

隔離等制限が大幅に緩和される3月末から、出店・集客とも攻勢をかける。

店数 10 / 15 店舗 (+1)

中国大陸 (広州/深圳/成都)

コロナ影響：大

業績

厳しいコロナ管理体制下でも、広州は4号店までオープン。予算を超える売上で順調に推移

課題

深圳市・東莞市・上海市が次々とロックダウンとなり、出店への影響が懸念される

店数 4 / 8 店舗 (+3)

2022年9月期 業績予想の修正について

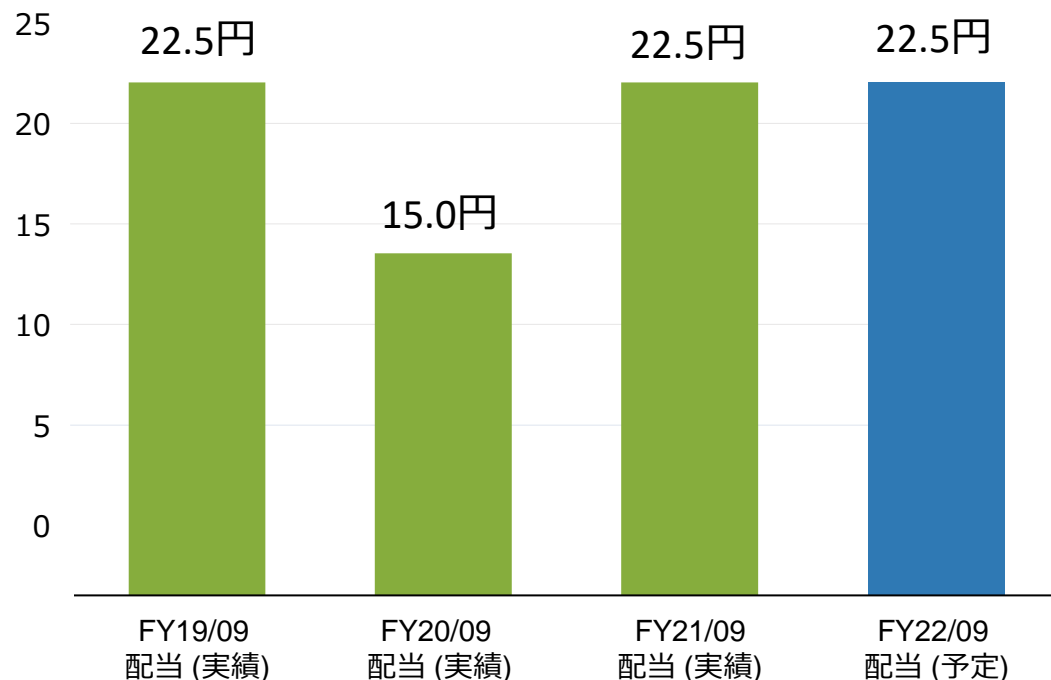
- まん延防止等重点措置が3月に解除され、経済活動を止めることなくコロナに対応していく、「ウィズコロナ」へと政策転換が進みつつあるという状況変化を受け、下半期の合理的な見通しが可能となったことから、以下の通り、業績予想を修正致します。

	FY22 通期		FY22 通期		FY21通期 対比	
	期初予想	売上比	修正予想	売上比	実績	増減率
(単位:百万円)						
売上収益	310,000	—	295,000	—	240,804	22.5%
営業利益	21,000	6.8%	16,000	5.4%	22,901	▲30.1%
税前利益	19,000	6.1%	14,000	4.7%	21,584	▲35.1%
当期利益	12,000	3.9%	8,700	2.9%	13,119	▲33.7%

株主還元について

配当

- 2020年4月1日に1株につき4株の割合で株式分割を実施（過去実績も分割後に合わせて記載）
- FY22/9は1株当たり22.5円の配当を予定（配当総額26億円を予定）



株主優待

種類

国内のスシロー・杉玉全店舗・(株)京樽が運営する全ブランド（※一部店舗を除く）で利用できる優待割引券

保有株数/ 贈呈金額

※贈呈金額は
2021年3月末日
基準日以降分

以下の保有株式数に応じて、年2回、国内店舗で利用可能な優待割引券を贈呈。

- 100株 ~ 199株: 年間 2,200円分**
1,100円（9月末日基準日）、1,100円（3月末日基準日）
- 200株 ~ 399株: 年間 3,300円分**
1,650円（9月末日基準日）、1,650円（3月末日基準日）
- 400株 ~ 799株: 年間 4,400円分**
2,200円（9月末日基準日）、2,200円（3月末日基準日）
- 800株 ~ 1999株: 年間 8,800円分**
4,400円（9月末日基準日）、4,400円（3月末日基準日）
- 2,000株 ~ : 年間 22,000円分**
11,000円（9月末日基準日）、11,000円（3月末日基準日）

使用 条件

- 会計金額1,100円（税込）毎に550円の優待割引券のご利用が可能
- 他の割引券との併用可能
- スシローのお持ち帰りネット注文・デリバリーではご利用頂けません。



FOOD & LIFE
COMPANIES

本件に関する注意事項

本資料は、株式会社FOOD & LIFE COMPANIES（以下「当社」）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、日本、米国その他の法域における当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

当社は、本資料に含まれる情報または意見の公平性、正確性、完全性または正当性について、明示的または黙示的に表明または保証をするものではありませんので、これらに依拠することのないようお願いいたします。本資料の使用または内容等に関して生じたいかなる損害について、当社は一切の責任を負いません。また、本資料の内容は事前の通知なく大幅に変更されることがあります。

本資料は、本資料の作成時点における業界、市場動向または経済情勢等に基づき作成されたものであり、その後発生する事象に基づき影響を受ける可能性があります。当社は、それらの情報を最新のものに更新するという義務を有していません。

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する見通しが含まれています。このような将来に関する見通しは、経営陣による将来の業績の保証を表すものではありません。これらの見通しは、将来の予想を議論し、戦略を特定し、経営成績または当社の財務状態の予測を含み、または当社の事業および業界、将来の事業戦略ならびに将来において当社が営業を行う環境に関する当社の現在における予想、想定、見積もりおよび予測に基づくその他の将来に関する情報を記載するものです。既知および未知のリスク、不確実性およびその他の要因により、当社の実際の業績は、将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証することはできません。実際の業績は予想とは大幅に異なる可能性があります。